

深田久弥

山の文化館だより

平成30年
秋号

深田久弥 山の文化館
〒九二一〇〇六七
石川県加賀市大聖寺春場町十八
TEL (0762) 721-3311
FAX (0762) 721-1181

以前より三号にわたって、資料文献室の整備状況をお知らせしてきましたが、八月二十二日に開設式典が行われました。

式典には宮元陸加賀市長、林直史加賀市議会議長と深田卓弥氏の出席のもと、多くの会員や山岳愛好家の見守る中、テープカットが行われました。

東京世田谷の深田久弥の自宅にあつた「九山山房」には、ヒマラヤなどの情報を求めて多くの登山家が訪れました。この資料文献室も豊富な資料を集め、多くの方々に来て頂きたいとの願いを込めて「九山山房」と名づけさせて頂きました。

今まで多くの文献、資料が公開できな状態に有りましたが、皆様に接して頂けるようになりました。ヒマラヤなど海外の山に関する洋書や地図などもご覧になれます。

前館長の高田宏が「本は読まれなければ意味がない」と言つたそうですが、特別なものを除いて、来館者の皆様が手にとつて読んでいただけるようになります。踏み入れれば幸せな気分になれる空間だよ。



と思います。ぜひ深田久弥山の文化館をお訪ね下さい。
また、さらなる内容充実の為皆様のお力添えをお願い致します。

『山岳展望』の方には、八月六日から日を追つてその行程が詳しく書かれている。程野から上町へ、そして下栗から山へのルートと、上町から小川路峠を越えて上九堅へのV字型のルートの謎が解けるのである。しかし、「小川から程野まで乗った」と書かれている索道のルートは地図上にはない。そして、索道に乗つたとされる「小川」と言う場所は特定できなかつた。

「赤石嶽」の地形図には易老岳と仁田岳の間のピークに赤い×印がある。そして、聖嶽にアンダーラインと、現在の新聖沢橋辺りからのルートが引かれている。赤い×印は、昭和十年に光岳登頂の後、聖岳を目指しながら雨で引き返した幕営地であろう。

参考
『日本百名山』
『山岳展望』
「光岳」



久弥と五万分の一地形図と赤鉛筆と

その4

第十三回コンクールは加賀市内小中学校の生徒の皆さんから、本年も感性あふれる多くの作品を応募して頂きました。審査員の厳正な審査の結果、入賞作品二十四点が選ばれました。市長賞、教育委員会賞、山の文化館賞三賞と、佳作十点、入選十一点が選ばれました。これら入賞作品は深田久弥山の文化館で展示されました。

加賀市ふるさとの自然 ふれあいコンクール 開催される



久弥の墓は加賀市大聖寺神明町の本光寺の墓地にあります。
久弥の墓は加賀市大聖寺神明町の本光寺の墓地にあります。

最近改修された山門をくぐり本堂を回り込むように、墓地の中のゆるい傾斜を登りきるとすぐ右手の一角に深田久弥と名前を記されたお墓が見えてきます。

久弥さんを慕い、愛された志げ子夫人が「私の小谷温泉」で書かれていたように、拝み石には二人の想い出として糸魚川のきれいな小石が埋め込まれ、まわりにはこれも志げ子夫人が植えられた椿の木が青々と茂っています。

百名山ブームの昨今、見るからに山男風の方がよく本光寺を訪ねられ、久弥さんのお墓にお参りされているようです。

奇しくも同じ本光寺の墓地には一緒にヒマラヤへ行かれた山川画伯のお墓もあります。郷里を同じくした二人が、白山を望む緑豊かなふるさとを上空から見つめているようです。

久弥の墓を訪ねて　～本光寺～

聞こえ予定

■十一月十八日(日)午後一時半より二時

深田久弥山の文化館聴山房

演題..家中での久弥

講師..深田 勝弥氏(深田久弥の甥)

演題..家中での久弥

講師..深田 勝弥氏(深田久弥の甥)

■十一月九日(日)午後一時半より二時

市民会館三階ホール

演題..山に登れば元気になります

講師..岩崎 元郎氏(無名山塾主宰 登山家)

●読書会のお誘い

十月二十三日(火)「剣岳」

十一月二十七日(火)「石鎚山」

一月二十二日(火)「富士山」

●場所..深田久弥山の文化館 聽山房
●時間..午後一時半より三時

*詳細はホームページをご覧下さい



編集後記

暑かった夏、地震、台風の直撃と異常続きでしたが、穏やかな秋になることを祈ります。山の文化館のイチョウが色づく季節が近づいています。黄色い絨毯を見にお越し下さい。(Y.O)